



動物のため、人のため 動物公園がとりくむ温暖化対策

- 活動時期 → 毎日
- 活動場所 → のいち動物公園内
- 主な活動メンバー園内スタッフ
(高知県、四国電力グループとも協力)

【ホームページ】

<http://www.noichizoo.or.jp/>

(取り組み内容)

◆動物公園のエネルギー対策

のいち動物公園では平成 17 年から、高知県や四国電力グループと協力して節電対策に取り組んでいる。

①照明・エアコンなどのエコ運転

できるだけ使用時間をおさえ、使用力所を減らし、エアコンの設定温度は、夏は高め、冬は低めに変更

②トイレの照明センサー

人がいる時だけ点灯する人感センサーの取り付け

③太陽光の照り返し防止

レストランの広いガラス窓に熱線遮断フィルムを貼ることにより、エアコンの運転を抑えられる

④電球から蛍光灯への移行

園内各所の白熱電球を、消費電力が少なく寿命も長い電球型蛍光灯に移行

◆糞尿のリサイクル

動物たちから毎日出る糞尿を敷ワラや生ゴミと一緒に発酵処理し、有機肥料として再利用している。

◆水のリサイクル

園内で使用された水は、管理区域の污水处理場に集めて浄化処理され、獣舎の清掃や植栽への散水、水洗トイレなどに再利用している。

◆環境教育の推進

- ・動物公園の環境に対する取り組みを題材に、団体や学校へのレクチャーや施設見学を受け入れている。
- ・平成 18 年に園内で「地球温暖化ストップにがんばっ展」のパネル展示を実施。その後、パネルの貸出しも行っている。



白熱電球を蛍光灯へ



糞尿加工の有機肥料



糞尿処理場



污水处理場

◆取り組みの成果

- ・平成 18 年度は過去 3 年間と比べると、動物公園全体で約 10 パーセントの節電に成功。
- ・動物たちの糞尿でつくった有機肥料を、園内植栽の肥料に利用し、毎月第 3 土曜日にはご来園の皆さんに無料配布したり、依頼があれば学校への提供なども行っている。
- ・平成 7 年度から動物公園の駐車場に太陽光発電システムを設け、年間約 85,000kwh（一般家庭の約 43 戸分の電力に相当）を発電し、園内電力の約 5 パーセントをまかなっている。

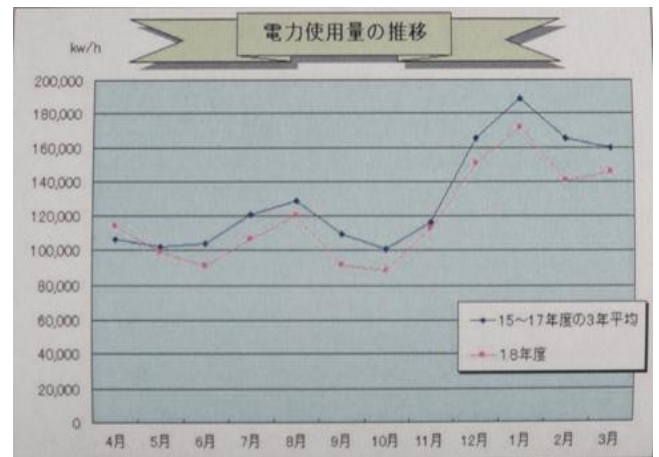
※ただ、施設の増設などによって、電気・水道使用量が上がってしまう可能性もあるため、今後も気を抜かずに取り組みを進めていきたい。

◆動物公園の想い

動物園には以下の 4 つの柱（役割）がある。

- ①レクリエーション
- ②調査・研究
- ③保護
- ④教育

動物園での取り組みを通して、今の野生動物が自然の中で安心して生活できるような環境を整えたい。



動物公園の電気使用量の推移



太陽光発電システム



◆取り組みを進めるためのポイント

- ・自分達のことだと、気づききっかけをつくる
- ・一人一人が意識して取り組む事が大切。子どもたち以上に大人の意識向上が必要
- ・ただ言葉をつらねても人は読まないため「おっ！」と思えるような仕掛けをつくる
- ・遊び感覚でエコを学ぶ

◆県民の皆さんに一言

動物のために行う取り組みは、人間のためにもつながっています！
自然のなかで自然環境が大切だということを見ていただきたいです。

高知県立のいち動物公園
KOCHI ZOOLOGICAL PARK OF KOCHI PREF.



(平成 21 年 10 月現在)